

2018年3月12日

2017年度 第2回 ECCアーティスト美容専門学校
学校関係者評価委員会議事録

学校法人山口学園
ECCアーティスト美容専門学校

学校法人山口学園 ECCアーティスト美容専門学校は、平成30年3月12日に「ECCアーティスト美容専門学校 学校関係者評価委員会規定」に基づいて学校関係者評価委員会を以下の通り開催した。

1. 学校関係者評価委員（「ECCアーティスト美容専門学校 学校評価実施規定」選出区分）

【関連業界等関係者】

永倉 瑞恵 氏 社団法人JMA 取締役 検定事業本部本部長

坂本 恭一 氏（欠席） 滝川株式会社 大阪営業所次長

【保護者または地域関係者】

猿木 唯資 氏（欠席） 済美福祉センター連合運営委員会 会長

高野 圭梨 氏 ECCアーティスト美容専門学校卒業生

【その他校長が必要と認める者】

橋本 尚樹 氏 株式会社クラフト・ワークス 副部長

【同席者】

中村 竜二 ECCアーティスト美容専門学校 学校長

辻浦 誠司 ECCアーティスト美容専門学校 副校長

有吉 光彦 ECCアーティスト美容専門学校 教務課副責任者

兼田 寛子 ECCアーティスト美容専門学校 進路指導課

三木 武志 学校法人山口学園 国際交流／社会貢献センター 責任者

2. 討議内容

- ①退学者 0 名実現に向けて
- ②学生にとって学校に何が不足しているか

●本校の現状

2017 年度の予測として進級率 90.1%、卒業年次の卒業率 96.3%であり、年間 7%前後の退学率となっているが、美容系の専門学校としては抑えられていると考えている。以前は 20%台の時代もあり、最近は大きく改善されてきている。

来期より「退学者 0 名」をスローガンに掲げているが、根本的に考え方を変えていかななくてはならない。現状の退学者の傾向で話をすると、意欲がなくなった 10 人程度、体調不良 5 人程度、進路変更 5 人程度、家庭での問題 5 人程度、対人関係 5 人程度である。受け入れた学生全員を卒業までもっていくのが学校としての使命であり、どのようにすればそれが実現できるかを学校としてさらに強化して取り組む必要がある。このことについて忌憚のないご意見やアドバイスをいただきたい。

また、これらを実現するために学生にとって学校に何が不足しているかも意見を頂きたい。

●意見交換等

- ・私が学生で入ったときも 24 人いたが 1 年で 18 人になり 2 年次に 2 人辞めるなどがあった。辞める理由は様々であった。入学する時点でイメージにずれがあると問題になる。(高野)
- ・ある学校で斬新だと思ったのが、クラスが学年ではなく学期の途中で変更しているところがあった。ただ変わった学生はいきいきとしていた。(永倉)
- ・皆は合わせようとするから合わない。実際わが社では辞めた子は 2 人であった。(橋本)
- ・なぜ 0 にしたいのか？
学校長・副校長の思いやメッセージなどを学生にいかに届けるかだと思ふし、先生と一緒に共有の目的があれば頑張ろうと思ふのではないか(橋本)
- ・辞めた学生のほとんどがオープンキャンパスに来たことがない。
当時は定員割れがあったので間口を広めていたと思うが、最近は ECC の美容に対して認知が上がってきているので、絞れてきていると思う。
オープンキャンパスを推進して認知をあげていき、入試で選抜ができる状況にもっていけばいいと思う。(高野)

- ・例えばオープンキャンパスに3回来ないといけないなどするとお互いより良く分りあえてずれが少なくなるのではないかと（永倉）
- ・海外の人がこれだけいる環境はない、これはECCの強みだと思う。（橋本）
- ・爆買いもネットで購入できるようになっているので、今は質の高い日本の接客を求めてきている。（永倉）

（サロンで辞めたいという人が出たらどういう対応をされているのか？）

- ・自分が辞めたサロンは、次は店長を任せてもらえると言われたが、脅迫的な対応が多く、辞めるなら今のお前の仕事はどうするんだなど迫られよけい苦しくなり辞めた。（高野）
- ・辞めたいというスタッフを食事に誘う等の対応はあるが、極力何も言わず、だまって全部聴くことが大切であると考えている。
やりたいことが何かと尋ねてみて、例えば「Webデザイナー」など出れば、じゃあ一緒にどうやったらなれるか考えようと言う等関係を切らない。
そのスタッフは結果的には辞めずに勤めている。（橋本）
- ・自分が担任をやっていた時は1日1回必ず学生と話すということを決めていた。
先生から学生に話しかけていくチームや機会を増やすのはどうか（永倉）
- ・学生が先生以外で相談ができるところがあるか？
これは当社でも考えていかなければならないことと感じている。
ECCの先生であると考えたと話せないが、全くの部外者となると相談しやすいと思う。
人に話をすることですっきりすることもあると思う。（橋本）
- ・学生相談室は臨床心理士が常駐して、来た学生に関しては守秘義務のことを伝えているので守られている場なのだという事は理解してもらえていると思うが、守られている場だということが皆に認知いただいているのかというところはまだ不足していると思う。（三木）

以上